

霍ほととぎす公鳥を思おもふ歌一首 田たぐらのあそみうまをさ口朝臣馬長の作さく

三九一四番

ほととぎす 今いまし来きな鳴かば 万よろづよ代に 語かたり継つぐべ
く 思おもほゆるかも

山やまのへのすくねあかひと部宿禰赤人、春しゆんあう鶯を詠よむ歌一首

三九一五番

あしひきの 山やまたにこ谷越えて 野のづかさに 今いまは鳴なく
らむ うぐひすのこえ声

十六年四月五日に、独ひとり平城なの故もとついで宅をに居をり
て作つくる歌六首

三九一六番

橘たちばなの 匂におへる香かかも ほととぎす 鳴なく夜よの雨あめ
に うつろひぬらむ

三九一七番

ほととぎす 夜よこゑ声ななつかし 網あみささば 花はなは過すぐ
とも 離かれずか鳴なかむ